

2015年度 協豊会関西地区 研修見学会を開催



【水素エネルギー製品研究試験センターにて】

協豊会関西地区では、毎年分科会活動の一環として「研修見学会」を実施し、会員各社の研修研鑽を図っています。

今年度は、12月10日（木）～11日（金）の2日間、協豊会関西地区会員各社より計24名が参加して、福岡県を訪れ、燃料電池自動車「MIRAI」の発売以来、次世代のクリーンエネルギーとして期待が高まる水素エネルギーを、より安全・安価に利用できることを目的に研究開発に取り組まれている「九州大学水素材料先端科学研究センター（HYDROGENIUS）」及び「水素エネルギー製品研究試験センター（HyTReC）」と「JR西日本博多総合車両所」を見学させていただきました。

HYDROGENIUSは、国内外より水素エネルギーに関する研究者を結集し、水素と材料にかかわる先端的な基礎研究を推進する水素の世界的な研究拠点です。具体的には、高圧水素環境における材料等のメカニズムの解明や水素物性データの取得により、水素関連機器の開発や、安全性と経済性の両立を実現するために、規制の見直しや国際標準化の支援を行っています。



【HYDROGENIUS 牧原副センター長様による事例紹介】

また、HyTReC では、高圧水素を取り扱う様々な試験に対して、安全対策が万全に整えられた試験設備を完備し、水素エネルギー産業への参入を志す企業からの依頼を受けて製品試験を行い、新規参入の支援を行っています。

HYDROGENIUS と HyTReC は連携して試験データをフィードバックし、今後次世代のクリーンエネルギーとして期待されている水素エネルギーの活用や水素関連製品開発に貢献されております。

今回、両施設を見学することにより、水素エネルギーの有益性を学ぶことができたと同時に、身近なエネルギーとして活用するためには、より安全性と効率性を高める必要があることがわかりました。



【耐圧試験で破損した試験片（HyTReC にて）】

JR 西日本博多総合車両所では、山陽新幹線の車両の定期点検・整備が行われており、ビデオでの作業の紹介、作業現場の見学、そして新幹線の現役運転士との質疑応答により、JR 西日本様の安全に対する取り組みについて学ぶことができました。身近な乗り物である新幹線が、事故や故障なく、乗客を安全・快適に目的地まで運んでくれている背景には、このような安全管理体制の下で、日々の地道な点検・整備が繰り返されていることをこの度の研修で知ることが出来ました。

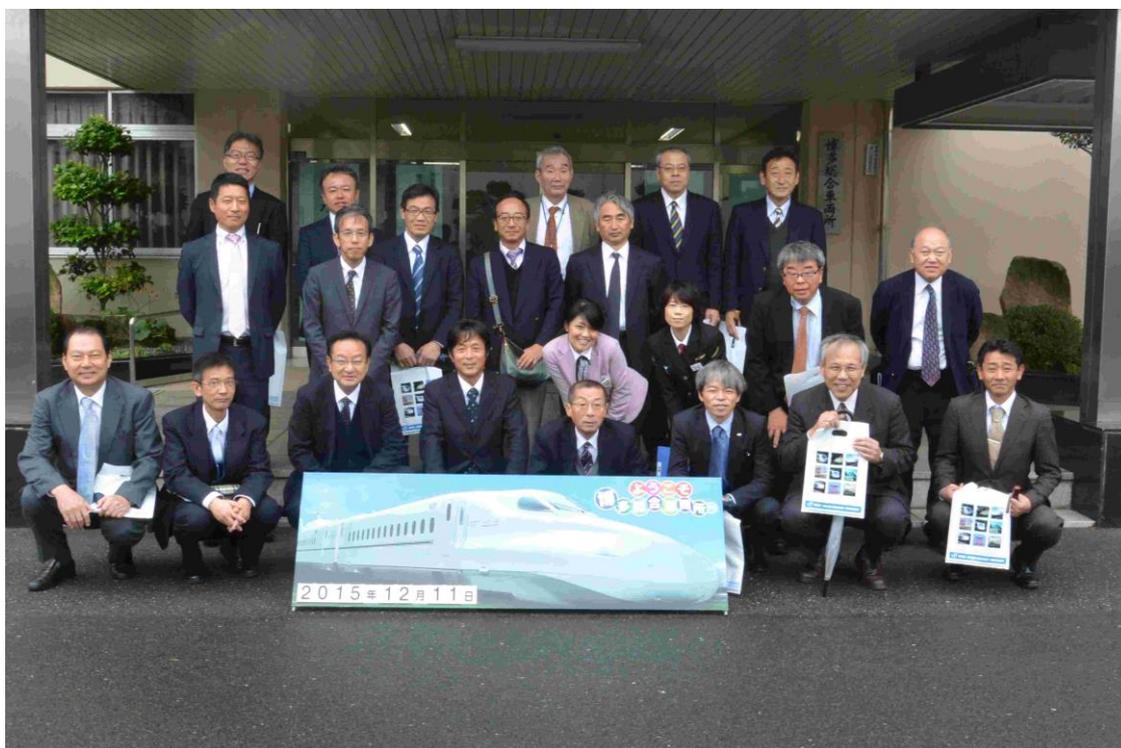


【JR 西日本博多総合車両所の概要説明】



【営業運転を終えて洗車される車両】

今回の研修見学を通じて、安全・安心・信頼を大切にした“ものづくり”の姿勢と、さらに将来への持続的成長を見据えた革新的な技術開発への取組みについて学ぶことができました。会員各社においても、今回得た知見を活かしてトヨタ自動車様とともに「もっといいクルマづくり」に貢献していきたいと思えます。



【JR西日本博多総合車両所にて】